

# 2022' 9 DancersWeb

トップインタビュー Vol.86



飯島望未／Kバレエ カンパニー プリンシパル

「すべてにおいて愛をもって接したい」

6歳でバレエをはじめ、7歳でポアント、8歳でコンクール出場、15歳で単身留学、16歳でプロ契約を結ぶ。短期間で恐るべき成長を遂げ、海外で15年間活躍。2021年に帰国、5月Kバレエカンパニー『ドン・キホーテ』にキトリ役でゲスト出演、8月にプリンシパル・ソリストとして入団。2022年3月プリンシパル昇格。ファッション誌の取材も多く、2019年にはシャネルのビューティアンバサダーに就任。バレリーナの枠に囚われない突き抜けたその存在は、大きな注目を浴びている。そして、2022年9月には同バレエ団の「プティ・コレクション」ープティ・プティ・プティ！に出演が決定。リハーサル状況とこれまでのバレエライフについて、一つひとつ丁寧に語ってくれた。

「すべてにおいて愛をもって接したい」

2022' Sep Vol.86

Dancers Web トップインタビュー



— 6歳でバレエをはじめたのは、姿勢を正しくするためだったそうですが、初日のレッスンから負けたくないという思いがとても強かったそうですね。

当時はがむしゃらで、誰よりも一番になりたいという一心だったので、バレエ作品が好きだからというよりも、とにかく結果を出したい。ただそれだけの思いでした。

じつはピアノも習っていたんですが、先生が怖くて辞めちゃいました。でもよく考えてみれば、バレエの先生の方がもっと怖かったのに続けていましたね(笑)。

小学校の授業では、ほかの子に負けたくないという思いは特になく、バレエだけです。当時、自覚はなかったんですが、はじめたその日からバレエに魅せられたのかもしれないですね。

—「プロになってから本当の楽しさを知った」と語っていらっしゃったのが印象的でした。

16歳でヒューストン・バレエ団にアパレンティスとして入団して、約1年後にソロパートをもらったんですが、クオリティの部分で注意されたんです。それまでは、どれだけ回数周って高く飛ぶかに命を賭けていました(笑)。

でも、パとパの間や間の動きを色々注意され、音楽性のことも含め、だんだん「踊り」というものの本質が分かってきました。今まで見てきた世界と違ったものが見えてきたとき、踊ることの本当の楽しさを知りました。17歳の頃ですね。

— 中学生の頃からすでに衣裳やメイクのこだわりをお持ちだったそうですね。

バレエのコンクールに『パキータ』のヴァリエーションで出場する予定だったのですが、衣裳で先生とちょっともめました(笑)。私は、パリ・オペラ座の衣裳のようなデザインのゴールドの長袖が着たかったのですが、先生の返事はノー。

先生をどうにか説得したいと、「費用は負担しますので」と再度交渉しに行きました。好きなデザインの衣裳で嬉しかったですね。

メイクも髪型も全部自分で行っていました。先輩のやり方を見て研究して、母親のアドバイスも取り入れて自宅で何度も練習していました。

— 中学生ですでに自立心があって達観されている感じですね。  
これまでもっとも影響を与えられた人をあえてあげるなら誰ですか？

人としてダンサーしてとても尊敬しているのが、元ヒューストン・バレエのバレエミストレス、ルイーザ・レスタです。私の悪いところはちゃんと注意してくれたり、優しい愛に溢れた人です。

バレエでは、上半身の使い方とか表現の部分は彼女にすべて教えてもらったと思います。お互い今ではヒューストン・バレエを離れましたが、ときどき LINE をしたり、次のリハーサルや舞台のことを話したり、良い関係は続いています。

— すべて順調なバレエライフを送っていらっしゃるように見えますが、  
疲労骨折を2度経験され大変な時期も経験されています。

ヒューストン・バレエ時代でもスランプを経験しました。自分の思うように踊れない。  
ピルエットも何しても上手くいかない時期がありました。

スタントン・ウェルチ監督はまったく褒めない人なのですが、「誰も悪いときはあるし、君は僕の前で一度も泣いたことがない強い人だ。もっと成長する人だし、こんなことでくじける人じゃない」と勇気づけられました。今でも感謝しています。

— どのようにスランプから乗り越えたのでしょうか？

結局やり続けるしかない。  
上手くいなくてもそれが一番の近道なので、リハーサルが終わって自主レッスンを続けて、少しずつ舞台でも良くなっていきました。

— ファッションや読書、映画と多趣味な飯島さんですが、帰国して新しくはじめたことはありますか？

まず、猫を飼い始めたことです。

前からずっと猫が好きで保護猫活動に興味がありました。日本に帰国して、猫の引き取り手を探していると聞いて、黒猫の2匹が新しい家族に加わりました！（と、黒猫が後ろのソファに飛び乗り、ゆったりくつろいでいる様子が画面に）

— 2022年8月1日にKバレエカンパニーに入団してから1年になりましたが、想像していないかったところはどんな点ですか？

もっとピリピリしている雰囲気かと思っていたんですが(笑)、みんな仲が良い。いい環境で切磋琢磨できているのはとてもいいですね。

— 2022年3月、『ロミオとジュリエット』公演直後にプリンシパル昇格が告げられたときはどのような思いでしたか？

こんなに早く昇格できると思っていなかったですし、入団後の自分のふがいなさや実力不足も感じていたので、ただただ驚きでしかなかった。

もちろんちゃんと努力してきた自負はあったんですが、テレビやCM出演などもあったせいか、名前が先行してしまい、知名度に比べて実力が伴っていないことは自覚していました。

2021年5月に、『ドン・キホーテ』でキトリを踊らせてもらいましたが、期待に応えられなかった思いが残って、自分自身でも評価できない悔しさが残る公演だった。認めてもらいたいという気持ちと、もう一度見たいと思われるダンサーになりたいともっと自分自身を鼓舞させていって、さらに努力を重ねるようになりました。

— 入団1年間でもっとも変化した点は？

内面が一番変わりましたね。アメリカにいるときは周囲もそうでしたが、みんな個人プレーでしたし、自分のことしか考えていなかった。もっとドライな関係でした。

でも日本人は、チームワークも大事にしていますよね。日本人の特性というのか、人との出会いや伝え方をもっと大切にする。そういう繊細な部分が自分の中にもあると気づきましたし、周りからも「雰囲気が変わったね」と言われます。

もっと強いイメージだったらいいんですが、柔らかくなったみたいです(笑)。

団員のみんなが本番前に応援してくれますし、終演後も「ここが良かった」とかダンサー同士で褒め合ったり、お互いモチベーションにもつながっていると思います。

— 2022年1月に、『FLOW ROUTE』で、渡辺レイさんの作品にはじめて出演されましたが、最初に踊った印象は？

スタイルが合っているなと感じました。とにかくエネルギーで、フィジカルをぜんぶを使う感覚です。身体の限界を感じるんですが、それが楽しい。

— 今年9月にもレイさん振付の『Petit Barroco』に出演されますが、通し稽古も一通り終わり、どのような手応えを感じていらっしゃるでしょうか？

今回は新作なので、クリエイションの過程が見れるのでワクワクしながらリハーサルしています。

レイさんからは、「もっとプッシュして身体全部を使って。細胞全部を感じながら踊ってほしい」と指示を受けたのですが、体力的に自分の限界を感じていたときだったので、さらにこの上をいかにくはないのかと(笑)。

クラシックバレエとはエネルギー配分も違いますし、かなりハードですが、だからこそ面白いですね。

— Kバレエカンパニーでコンテンポラリー作品2作目になりますが、レイさんの振付はどうですか？

私は、バレエ畑で踊ってきたので、見よう見まねでしか踊れないのですが、レイさんからは「そのまま感じたままの踊りでいいんだよ」と言ってもらえたので、自分が経験してきたことに自信を持って作品に挑めるので、心地よいです。

苦手意識もなくなりましたね。レイさんは、自分の良さを引き出してくれますし、自分の踊りができます。

— 新作『Petit Barroco』は、石橋奨也さん、山田夏生さん、吉田早織さんら11名と創る作品ですが、どんな作品になりそうですか？

「女性の解放された自己表現」がテーマになっていて、強い女性像が描かれています。レイさんらしいスタイルと、コミカルな雰囲気や可愛らしさもあり、振付の幅がとても広い。

最初はハイヒールで登場します。そして、ハイヒールを脱いでエネルギーを放出し、自由を求める表現で踊ります。ハイヒールで踊るのははじめてなので、バランスが取りにくくて大変でしたけど、まだまだブラッシュアップしてゆくので楽しみにしてください。

— 表現者としての「美学」は？

成長し続けないと意味がないので、自己満足で終わらないようにしています。そして、バレエをよく知らないお客さんにもちゃんと伝わるように心掛けています。

— コロナ禍で「こんなときだからこそ、人のために動くことが原動力になる」とおっしゃっていましたが、最近の原動力は？

知り合いの方がボランティアで、ウクライナ移民のサポートをしているんですが、私もほんの少しですが、お手伝いさせてもらっています。

最近特に感じるのが、人とのつながりや関わりです。一番の活力になります。

— 飯島さんにとって、一番大切なものは何ですか？

ものすごいベタなことっていいですか(笑)？

やはり、愛が一番大事だと思います。すべてにおいて愛をもって接すると、人も動物も物に対しても、その思いがちゃんと伝わってかえってくる。バレエの役に対してもそうです。

伝え方とか言葉とかに思いやりを込める。少しの愛があればイヤな気持ちにはならない。自分から愛を与えていきたいと思いました。

— 「ゆくゆくはサポートや制作に回りたい」とのことですが、ファッション・映画・読書など様々な趣味をお持ちの飯島さんだからこそ、総合プロデュースの舞台をいつか観てみたいです。

ファッションを仕事にすることは無いと思いますが、舞台制作はやってみたい気持ちはあります。衣裳デザインも面白いかもしれないですね。口を出すだけかもしれませんが(笑)、考えておきます。

— 今後、どんな作品を踊ってみたいですか？

マルコ・ゲッケの作品も好きです。奇想天外な発想で予想外な動き。そういう踊りを踊ってみたい。自分の未知の可能性を引き出してくれるんじゃないかという、憧れがあります。

9月の「プティ・コレクション」の新作『Petit Barroco』もそうですが、10月には『クレオパトラ』に主演デビューさせていただきます。新しい作品に挑戦させてもらえるのはダンサーとしてとても嬉しい。Kバレエカンパニーとの出会いを大切にしていきたいです。

※「プティ・コレクション」のリハーサル動画はこちらから

[https://www.bunkamura.co.jp/orchard/lineup/22\\_opto\\_petit/topics/6416.html](https://www.bunkamura.co.jp/orchard/lineup/22_opto_petit/topics/6416.html)

K-BALLET Opto「プティ・コレクション」—プティ・プティ・プティ!

2022年9月30日(金)～10月1日(土) KAAT 神奈川芸術劇場 ホール

<https://www.k-ballet.co.jp/contents/2022opto>

K-BALLET COMPANY『クレオパトラ』

[東京]2022年10月26日(水)～30日(日) Bunkamura オーチャードホール

[大阪]2022年11月3日(木・祝)フェスティバルホール

[札幌]2022年11月7日(月)札幌文化芸術劇場 hitaru

<https://www.k-ballet.co.jp/contents/2022cleopatra>

#### 【飯島望未プロフィール】

6歳からバレエを始める。2007年15歳で単身渡米し、ヒューストン・バレエ団の研修生となり、翌年には史上最年少でプロ契約。2019年3月には、ヒューストン・バレエ団のプリンシパルに昇進。2021年3月に、同バレエ団を退団後、拠点を日本へ。2021年5月19日(水)～5月23日(日)Bunkamura オーチャードホールにて、熊川哲也率いるKバレエカンパニーが主催の熊川版『ドン・キホーテ』に出演が決定。またバレエ以外でも、SNSで発信するファッションセンスでも注目を集め、2019年よりシャネルのビューティー アンバサダーに就任。

[https://www.k-ballet.co.jp/nozomi\\_ijijima](https://www.k-ballet.co.jp/nozomi_ijijima)